

2024

スマートホーム 業界分析レポート

THE BRIEF MARKET ANALYSIS REPORT ON SMART HOME

MARKET
ANALYSIS

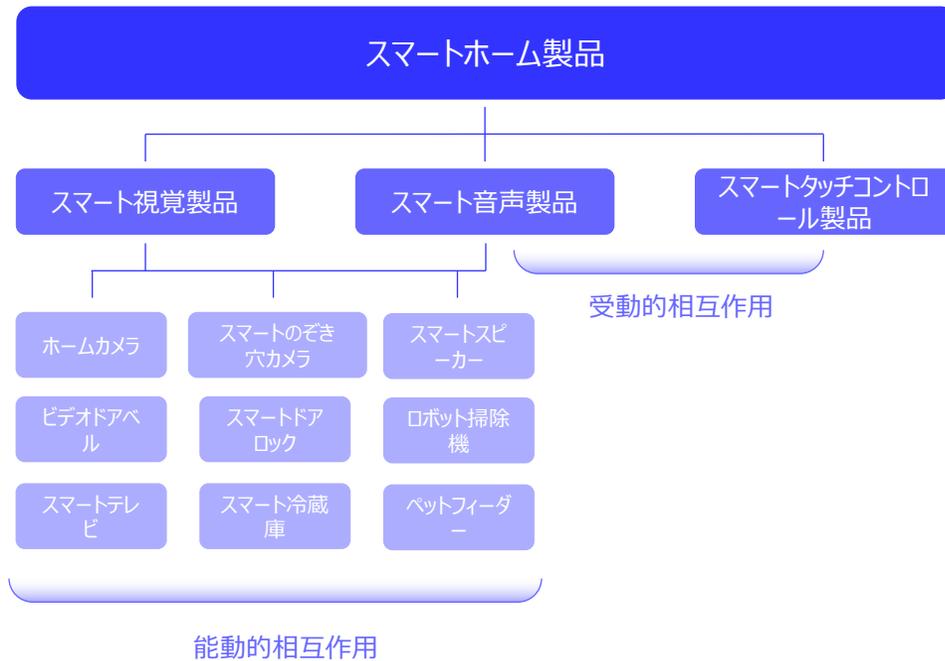
MICR



01. スマートホームが生活の質を高める新たな人気商品に

- スマートホーム製品は、インターネット技術、モーター機器などの統合を通じて、家庭環境に豊かな三次元の多機能体験を与えた。スマートホームは、伝統的な家電製品が情報技術と結びついて発展した必然的な結果である。
- 現在、主流のスマートホームデバイスは、スマート視覚製品、スマート音声製品、スマートタッチコントロール製品に分かれている。単一製品の知能化、ブランド間・カテゴリ間の相互接続と相互運用の段階を経て、スマートホームはIoTデバイスとAIアルゴリズム技術に依存し、徐々にシステム知能化の方向に発展している。

スマートホームの分類



スマートホーム開発の段階

スマート単一製品段階

中核: 製品中心

技術: センシング技術により、信号を受信・反応し、家庭用製品と情報技術の統合を実現する。

利点: スマート制御により、ユーザーの負担を軽減する。

欠点: 複雑な操作、断片的なシーンパターン、デバイスの互換性の低さ、システムの機械化

スマート相互接続段階

中核: シーン中心

技術: ネットワーク通信、モノのインターネットなどの技術を通じてさまざまな機能をシステムに統合し、ブランド間・製品カテゴリ間の相互接続を実現する。

利点: 住宅設備と住環境の調和を保つ。

欠点: 通信プロトコルの規格を統一すること、機器間の相互接続を実現すること、相互作用の入り口を統一すること。

全面的相互接続段階

中核: ユーザー中心

技術: ネットワーク通信、モノのインターネット、クラウド・コンピューティング、人工知能、機械学習などの技術を通じて、機械の能動的行動を実現する。

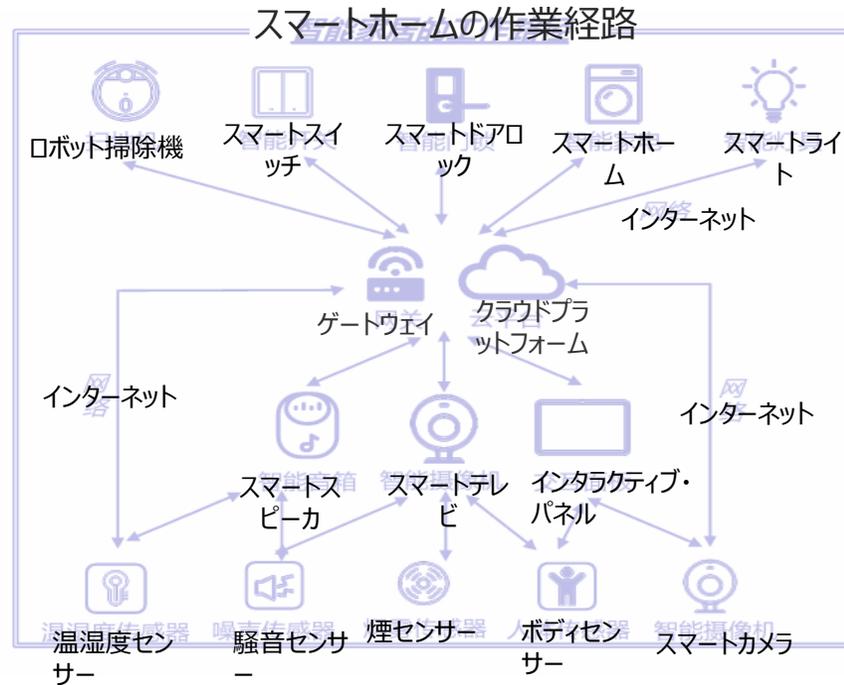
利点: 時間厳守、パーソナライズされた、スマートでユーザーフレンドリーなサービスを提供する。

欠点: 統一されたAIハブ、ハードウェアの安定性と互換性、多分野にわたる技術の統合。

02. ゲートウェイとクラウドプラットフォームによるスマートホームの運用

- AIoHは、人工知能と家庭用モノのインターネット技術の融合で、スマートホームデバイスの相互接続、遠隔操作、迅速な意思決定などの機能を実現するものである。AIとクラウドプラットフォーム技術の応用が最も期待されている。
- ゲートウェイとクラウドプラットフォームは様々な情報を収集・処理し、分析から得られた意思決定の指示を様々な実行デバイス（実行器官）に伝達する。ゲートウェイとクラウドプラットフォーム（頭脳）から与えられた指示を実行するために様々なスマート家電やスマート接続制御デバイスが使用されている。家庭内のネットワークは様々なデバイス（器官）を接続し、情報の伝達と同期を行う。

スマートホームと人間の作業経路比較



作業内容

実行部分

指示の履行、ステータス更新のフィードバック

処理部分

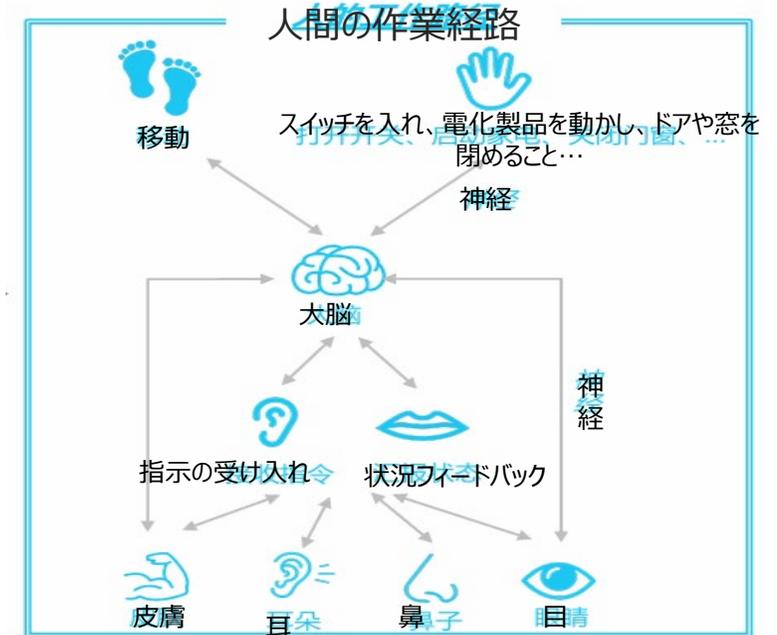
受け取る、記憶する、判断する、決断する、指示を出す

インタラクティブ

ユーザーの指示を受信してフィードバックする媒体
音声、視覚、タッチなどの機能を備えたデバイス

感知部分

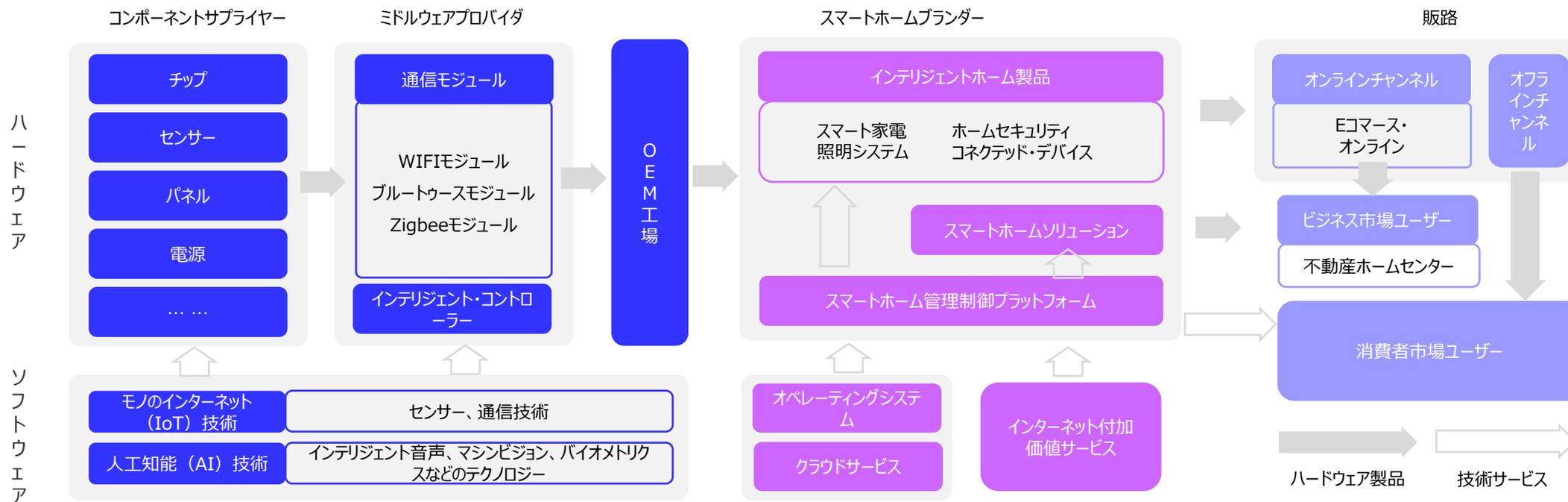
環境情報と動きを感知する
ゲートウェイとクラウドプラットフォームに情報を配信



03. スマートホームの産業チェーン

- 産業チェーンの川上には、ソフトウェアとハードウェアを供給するテクノロジー系企業がある。ハードウェア企業には、チップやセンサーなどの部品サプライヤーや通信モジュールを担当するミドルウェアサプライヤーが含まれ、ソフトウェア企業は主にIoTや人工知能などの技術提供を担当する。
- 産業チェーンの川中は、主にスマートホームブランドとシステムプラットフォームサービスプロバイダーで、前者はスマートホーム設備を提供し、後者はスマートホームソリューションと一部のインターネットサービスを提供する。
- 産業チェーンの川下は、消費者市場向けのオンラインおよびオフラインの製品販売と、不動産および住宅装飾企業の市場（ビジネス市場）を含む最終販売チャネルである。

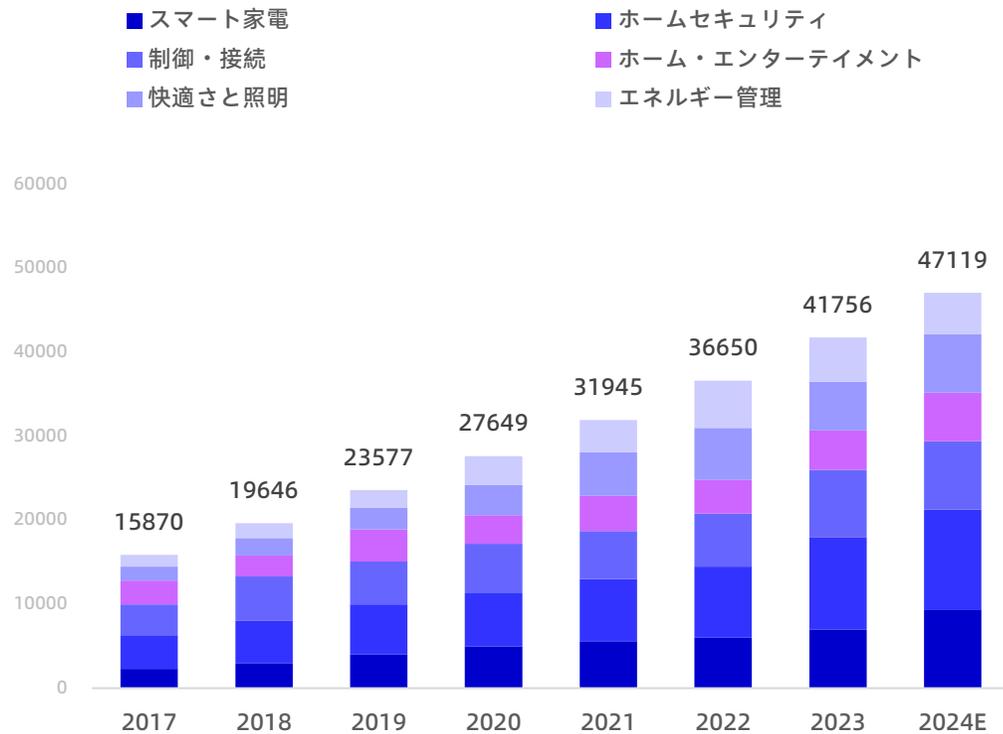
スマートホームの産業チェーン



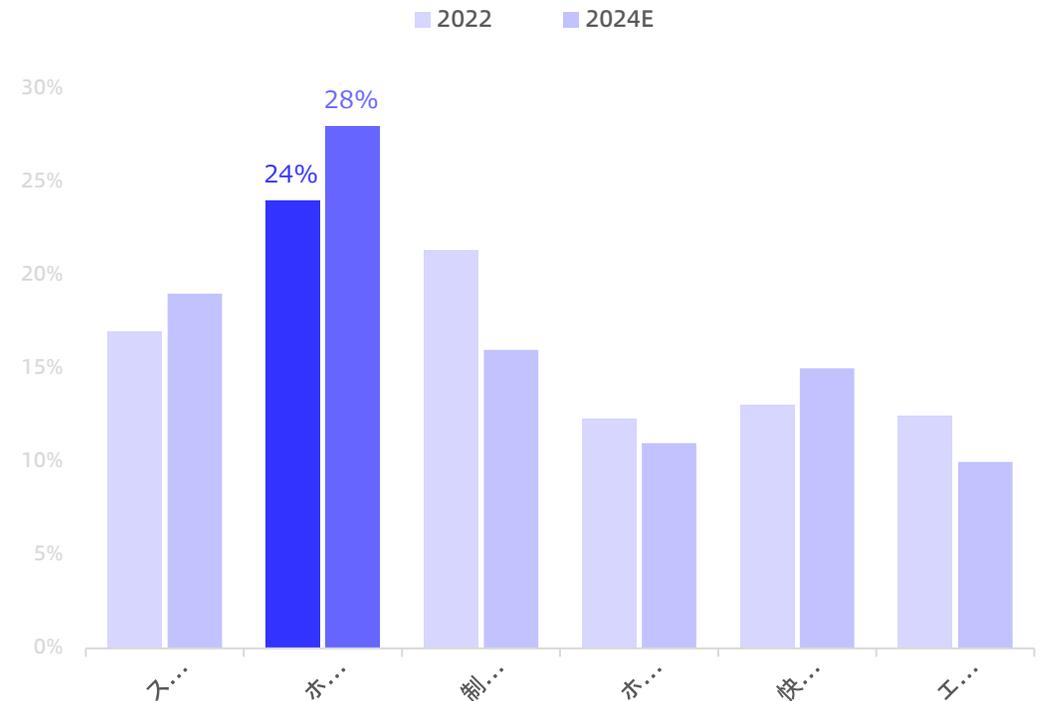
04. 世界のスマートホーム普及率が上昇

- Statistaによると、世界のスマートホーム市場は2024年に471億元に達し、2020年から2024年までの年平均成長率は約15%である。各種のスマートホームデバイスの中で、高い市場シェアを占めるのは、ホームセキュリティ、スマート家電、制御・接続の категорияである。中でもホームセキュリティの市場シェアは、2020年の24%から2024年には28%に上昇すると予測されている。

2017年～2024年スマートホームの世界市場規模（100万米ドル）



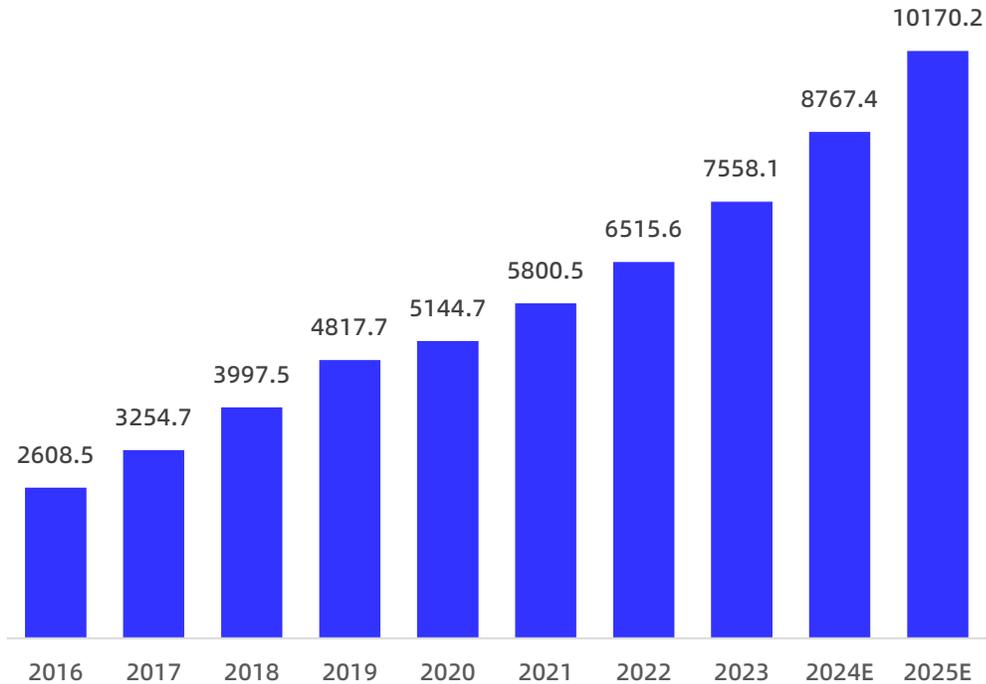
スマートホーム製品の世界市場タイプ別シェア推移



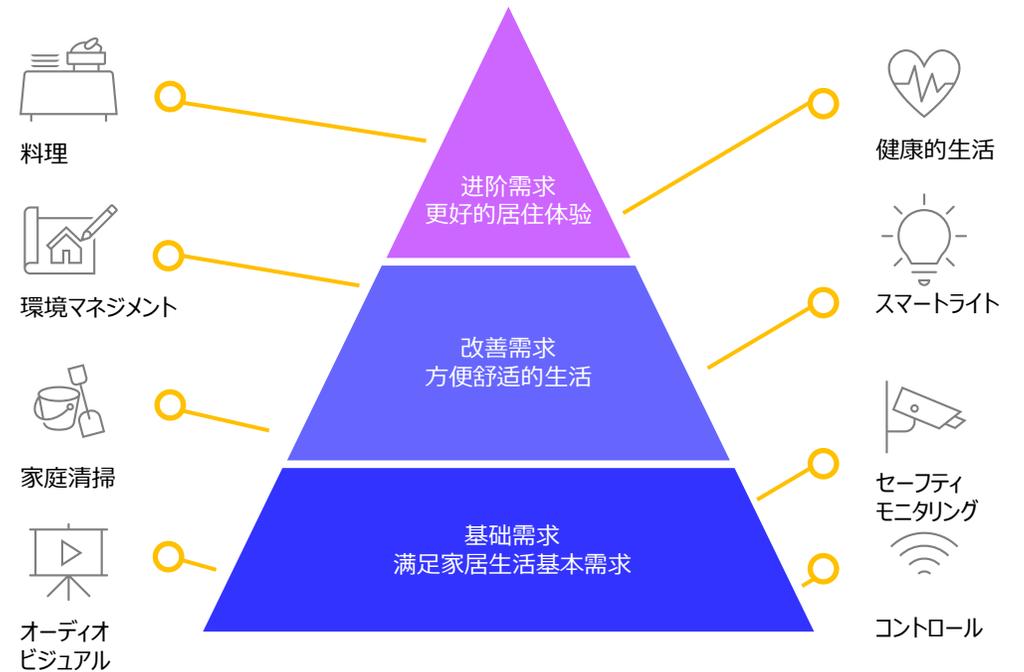
05. 中国のスマートホーム市場は1兆円を超える見込み

- 経済回復につれて、スマートホーム市場規模は2025年に1兆円を超えると予想されるが、現在の中国のスマートホーム世帯普及率は14.5%で、欧米などの先進国に比べてはるかに低い。
- AIと5Gの技術躍進と外部環境の優位性により、スマートホーム製品に対する消費者の認知が進み、一部のスマートホームポップアップ製品が消費者需要の解放の引き金となった。

2016-2025E中国スマートホーム市場規模（億元）



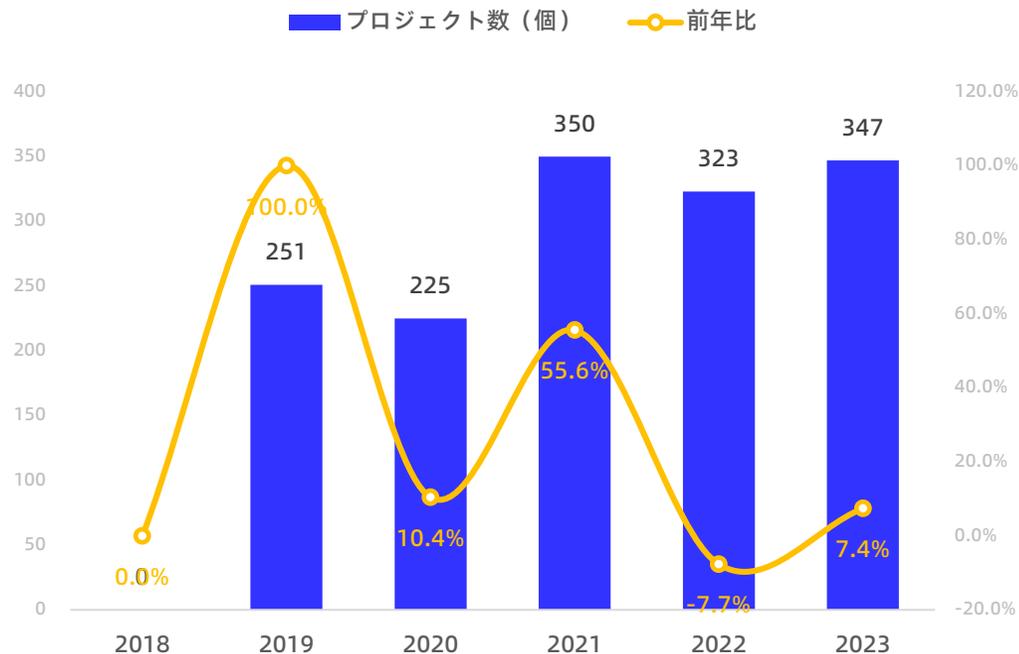
スマートホーム製品の需要層



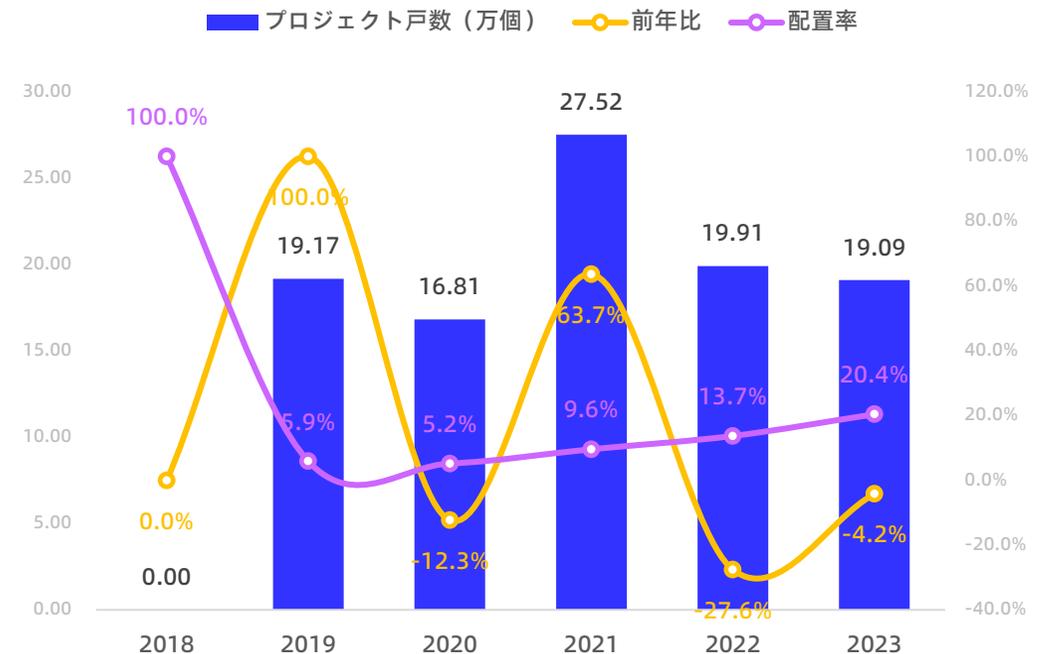
06. スマートホームの構成率が初めて20%を超える

- 2023年、中国の不動産仕上げ市場では1564件の新規プロジェクトが取引開始し、前年比21.9%減で減少率は20.6ポイント縮小した。市場規模は93.39万戸、前年比35.9%減で減少率は13.2ポイント縮小し、市場は改善した。その中で、スマートホーム全体（スマートホームシステム、スマートスイッチ、スマートドアロック）の仕上げ市場は1314プロジェクトが取引開始し、市場規模は112.8万戸となった。
- 仕上げ市場規模は2024年に95万戸に達し、スマートホームシステム、スマートスイッチ、スマートドアロックの市場規模は2024年にそれぞれ23.8万戸、16.2万戸、80.8万戸に達すると予想される。

2023年の仕上げスマートホームサポートプロジェクト数と前年比



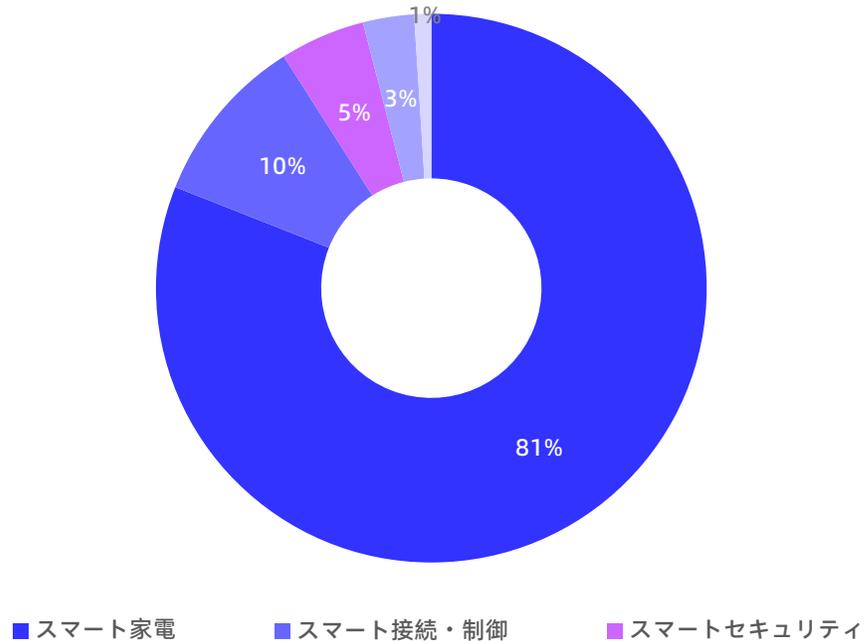
2023年の仕上げスマートホームサポートプロジェクト戸数と前年比



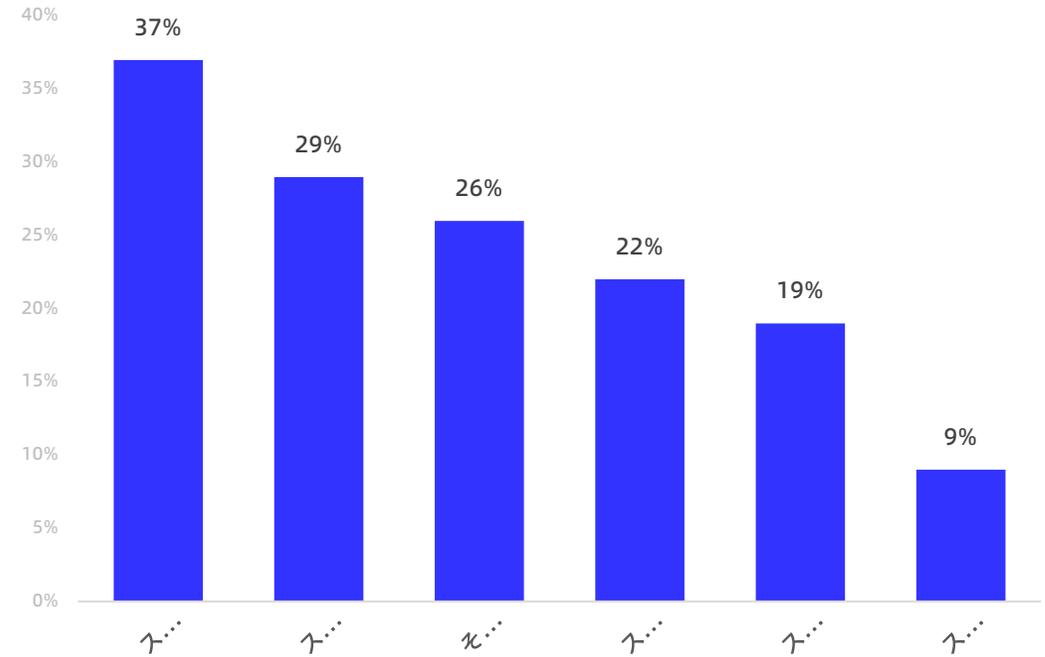
07. スマートホームの重点分野は、開発段階が異なる

- スマートホーム産業のセグメントには、スマート・セキュリティ、スマートライト、スマート家電、スマート環境制御、スマート健康管理、スマート・オーディオ&エンターテインメント、スマート・キッチン、家屋スマート・ソリューションが含まれる。
- 現在、スマートホーム産業の主要分野はそれぞれ異なる発展段階にあるが、中でもスマート家電、スマートセキュリティ、スマートライトセンサーの分野は比較的成熟しており、幅広い製品群と高い市場普及率を誇っている。
- スマートキッチン、スマートエンターテインメント、スマートバスルームは急速な発展段階にあり、製品の知能指数は向上し続け、市場の受容度は年々高まっているが、全体的な普及率はまだ改善の余地が大きく、特に3、4線都市と農村市場では改善の余地が大きい。

2023年中国スマートホーム市場収益規模シェア



2018年-2023年中国におけるスマートホームセグメントの年平均成長率



08. スマートホームの4つの陣営

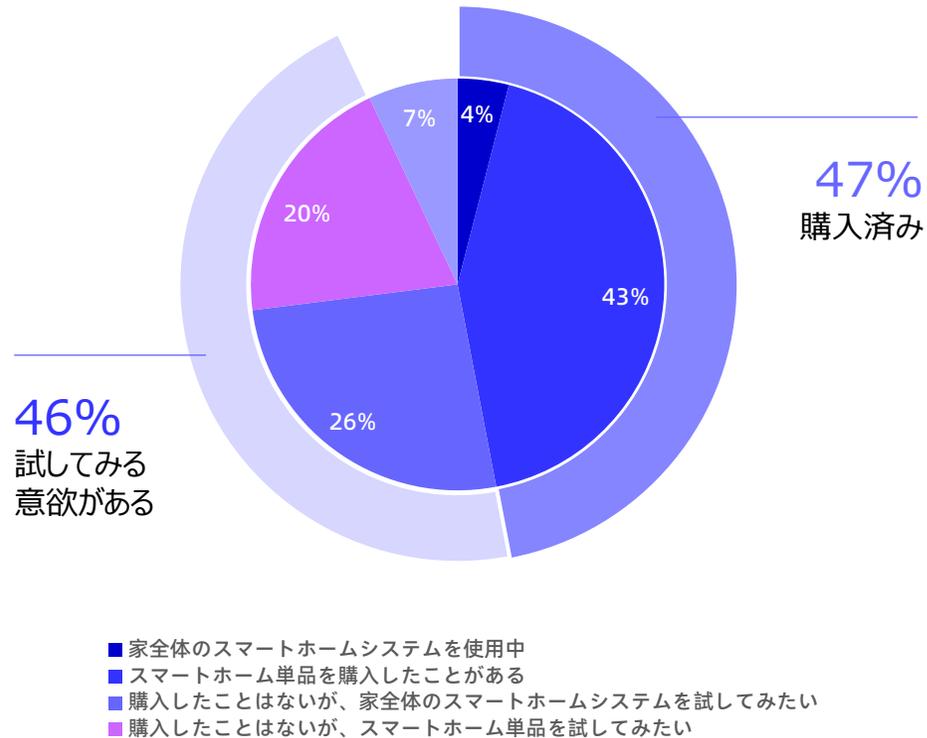
- スマートホームは、家全体のスマートハードウェア、単品のスマートハードウェア、家電製品、インターネットプラットフォームの4つの陣営に大別される。
- 家全体のスマートハードウェアは、豊富な製品マトリックスと卓越したハードウェア能力を持ち、家全体のスマート浸透に力を注いでいる。一方、単品のスマートハードウェアは、爆発的なスマートハードウェア単一製品の創造戦略を採用し、掃除ロボットやスマートプロジェクターなどの単一製品の創造に力を注いでいる。
- 家電企業は伝統的な家電業界のトッププレーヤーであり、強いブランド影響力と豊富なチャンネル経験を持つ。百度（バイドゥ）、阿里（アリババ）、騰訊（テンセント）などのインターネット企業は、独自のプラットフォームの優位性を活かし、スマートホームプラットフォームの構築とスマートホームエコシステムの創造に力を注いでいる。

陣営	特徴	代表企業	主要製品
家全体のスマートハードウェア企業	ハードウェア機能が際立ち、豊富な製品マトリックスを持ち、家全体の智能化を進む	シャオミ	スマートスピーカー、スマートドアロック、スマートカメラ、カーテンモーター、衣類乾燥機、スマートライト、スマートスイッチ、清掃ロボットなど
		ファーウェイ	スマートドアロック、スマートスピーカー、スマートカメラ、スマートライトなど、HiLinkプラットフォームを核としたエコシステムを構築する
		萤石(ezviz)	スマートホームカメラ、スマートドアロック、スマートのぞき穴カメラ、スマートセントラルコントロールスクリーン、スマートサービスロボットなど
		レノボ	スマートホームカメラ、スマートドアロック、スマートのぞき穴カメラなど
		360	スマートモニタリング、スマートドアロック、掃除ロボット、床洗浄機など
		Aqara（アカラ）	スマートホームカメラ、スマートドアロック、スマートスイッチ、スマート電気物干しラックなど
単品のスマートハードウェア企業	掃除ロボットやスマートプロジェクターなどの単一製品が中心	ECOVACS	掃き掃除ロボット、窓拭きロボットなど
		Roborock（ロボロック）	掃き掃除ロボット、床洗浄機、掃除機など
		XGIMI	スマートプロジェクター製品が中心
家電企業	伝統的な家電業界のトッププレーヤーであり、深いブランド影響力とチャンネル経験を有する	グリー集団	スマートドアロック、スマートスイッチ、スマート扇風機、スマート除湿機、スマートヒーターなど
		美的集団	スマートロック、スマートライト、スマートカーテンなど
		ハイアール集団	掃き掃除ロボット、床洗浄機、電動カーテンなど
		Haotaitai	スマートロック、スマートドアベル、スマート物干しラックなど
インターネット企業	スマートホームプラットフォームの構築とスマートホームエコシステムの創造に力を注いでいる	百度（バイドゥ）	バイドゥDuerOS
		阿里（アリババ）	飛燕プラットフォーム
		騰訊（テンセント）	雲小微プラットフォーム
		京東（ジンドン）	京魚座

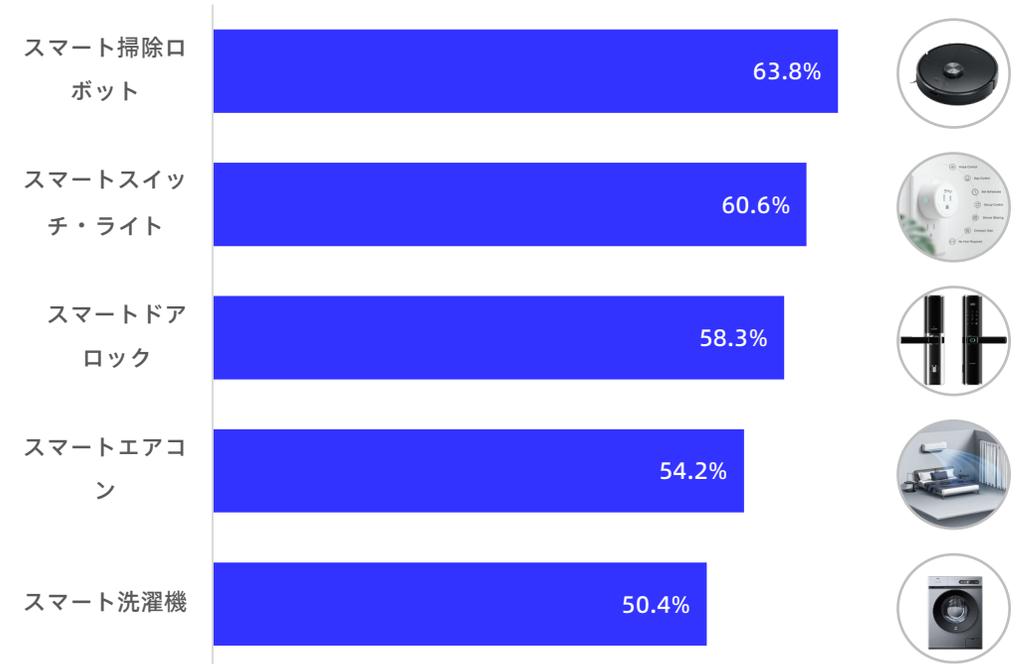
09. スマートホームを受け入れている若者たち

- 消費者は、環境保護や健康、美学、知能性、テクノロジーなど、住宅空間づくりの効果に対する要求をますます明確にしてきている。若者は生活の質に注目し、個人化されたインテリジェントなライフスタイルとハイテクな家庭体験を追求しており、家庭内の電気システム全体を一元管理し、ワンクリックでさまざまなスマート家電を起動できることを望んでいる。

スマート家電に対する若者の受容状況



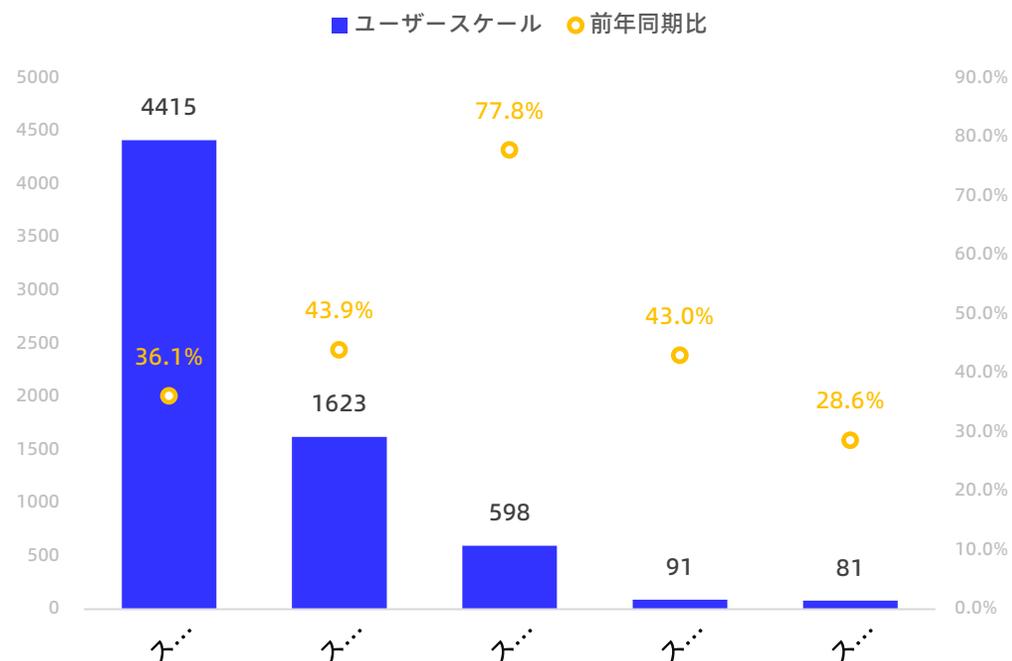
若者に人気のスマートホーム製品トップ5



10. 中高年がスマートホームの積極的ユーザーに

- 中高年はますますスマートホームの重要なユーザーになりつつあり、50～59歳世帯の65%がスマートホーム単品のユーザーで、5%が家全体のスマートホームユーザーである。その中で、スマートロック、スマートスピーカー、スマート家電、スマートカーテン、スマートカメラが最もよく使う上位5製品となっている。
- 住宅建設部のデータによると、家庭環境の高齢者向け転換がもたらす直接的な市場シェアは3兆元に達し、家庭の高齢者向け転換の重要な一部であるスマートホームは大きな潜在力を秘めており、2023年までに中国のスマート養老市場は10兆5000億元に達すると予想されている。

2023年中高年向けスマートデバイスのアクティブユーザー数（万人）



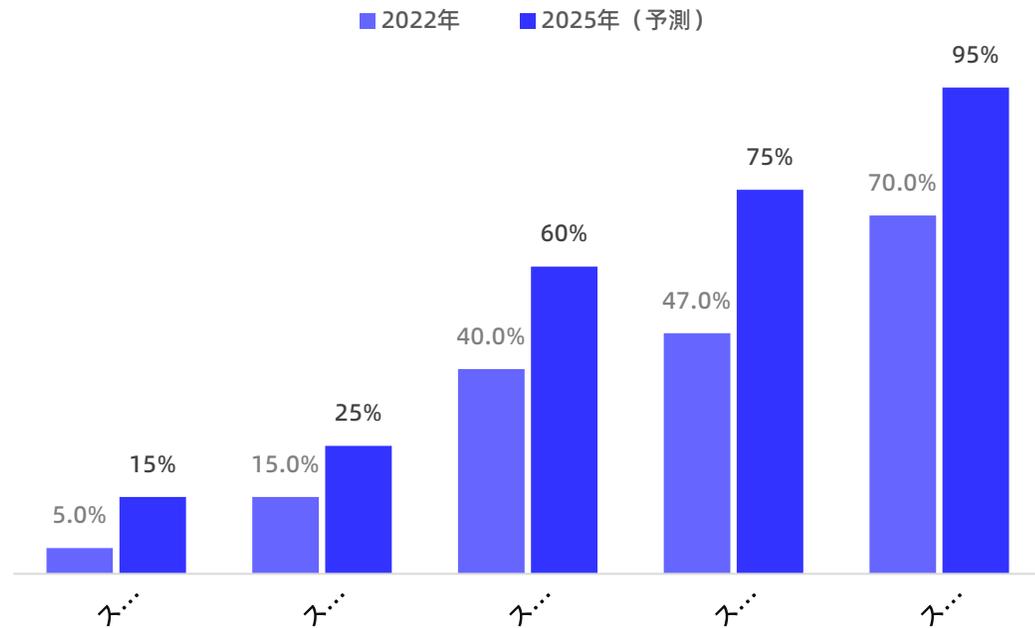
シニア市場を開拓するスマートホーム関連企業

ブランド	企業の種類	レイアウトの方式
美的	家電	高齢者向けのハイテク住宅ブランドである美颐享
ハイアール	家電	多次元レイアウト
萤石(ezviz)	スマートホーム	家庭用転倒検知・ケア・キット
羅格朗 (Legrand)	電気とインテリジェントビル	スマートホーム・ケアソリューション
Tuya smart	グローバル化されたIoT開発プラットフォーム・サービス・プロバイダー	スマートケアソリューション
ハイセンス	家電	高齢者向けのスマートホームソリューション
シャオミ	テクノロジー、インターネット	スマートケアソリューション
セグー(Segoo)	ロボット+スマートホーム	スマートホーム単品
Wanjiaan (万佳安)	スマートホーム	スマートケアプログラム
麒盛ハイテック (Keeson)	スマートベッド	スマートベッド
ARROW	家庭用製品	高齢者にやさしいバスルーム
Vayyar	イメージング・センサ社	介護技術の輸出
UIOT (紫光物联)	スマートホーム	スマートケアシナリオ・ソリューション
Sleepace享睡	スマート・スリープ・テクノロジーズ社	スマートケア監護・ソリューション
ORVIBO	スマートホーム	高齢者ケアのアパートスマートソリューション

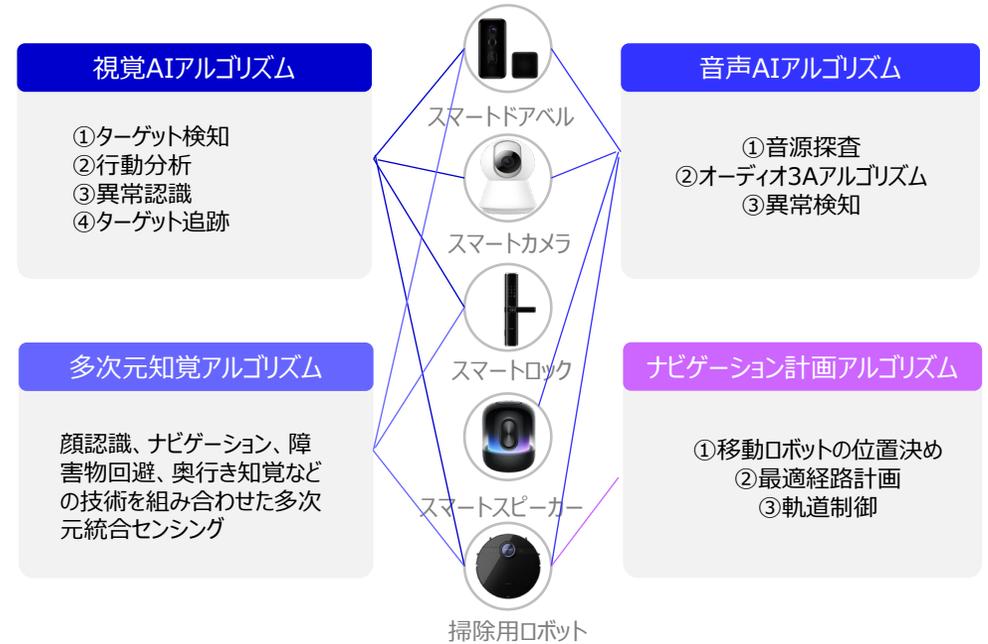
11. AI技術がスマートホーム全体の普及率向上に貢献

- AI技術は主にスマートホームの各種製品にスマート視覚モジュールとスマート音声モジュールの形で応用されているため、スマート視覚・音声対話機能を備えたスマート掃除機、スマートカメラ、スマートドアロック、スマートスピーカーはAI技術の高い普及率を示しており、2025年にはAI技術の普及率60%を突破すると予想されている。
- 全体として、スマートホームにおけるAI技術の業界全体の普及率は約25%で、家庭生活の快適さに対するユーザーの要求の向上と技術成熟度の向上とともに、AI技術は様々なカテゴリーの製品にさらに浸透し、2025年にはスマートホームにおけるAI技術の全体普及率は50%近くになり、ユーザーの日常生活にさらに貢献する。

2022&2025年中国スマートホームカテゴリーのAI技術アプリケーション普及率と予測 (トップ5)



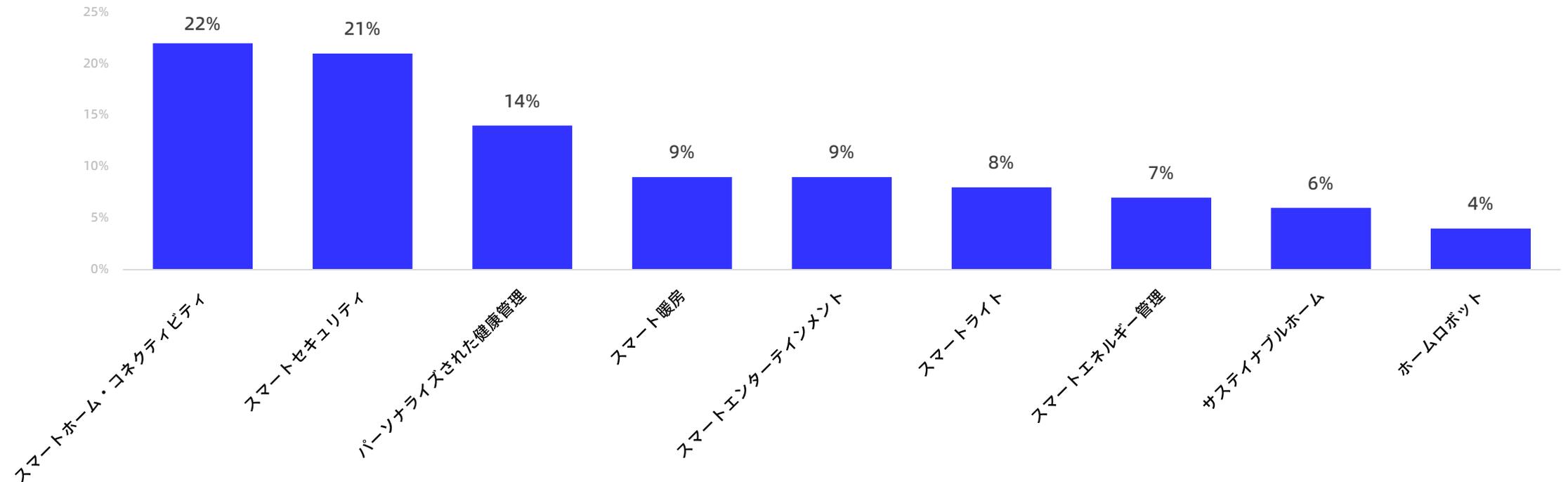
スマートホームAIのアルゴリズム分類と応用



12. スマートホーム分野における技術革新の方向性

- スマートホームの傘下には数多くの分野があり、世界中の新興企業がスマートホームを次のレベルに引き上げる新技術を開発している。統計によると、スマートホーム・コネクティビティとスマート・インドア・セキュリティが、2023年に最も影響力のあるスマートホーム技術として浮上している。
- いくつかのスマートホームセグメントにおけるイノベーションの出現に伴い、様々なセグメントで強力なブランドが台頭し、世界のスマートホーム業界を多勢力の状況に押し上げている。

2023年世界をリードするスマートホームのイノベーション・トレンド



13. スマートホーム業界が直面する4つの課題

知能標準化の欠如

現在のスマートホーム市場は、複数の異なるスマートホーム機器ブランドとエコシステムが存在し、それらの間の相互運用性と互換性が不十分であることを特徴としている。パーソナライズやカスタマイズに対する消費者の要求が高まっており、消費者は自由に組み合わせて柔軟に設定できるスマートホーム製品の購入を望んでいる。ユーザーがスマートホームシステムを構築する際、様々な異なる規格やプロトコルに対応する必要があるため、ユーザーのコストと難易度が高まる。

01

高齢者のニーズとのギャップ

スマートホームはもっと高齢者に優しいべきだが、現在のスマートホーム製品の設計と開発の多様性は高齢者中心ではなく、ほとんどが高齢者の生理的特性を考慮していないため、高齢者に向ける際、真の知能化をじつげんすることが難しいだけでなく、高齢者の生活にも多くの不便をもたらす。

02

コスト上昇が需要を制限

スマートホームデバイスの価格が高いため、一部のユーザーの購入意欲が制限される可能性がある。さらに、スマートホームデバイスの種類が増えるにつれて、ユーザーは複数のデバイスを購入し、それらを統合する必要があり、全体的なコストが増加する。したがって、いかにコストを削減し、スマートホームの経済性を向上させるかは、取り組むべき課題である。

03

セキュリティ問題

スマートホームには、ユーザーのプライバシーや個人データが含まれ、それらはデバイス間で伝送・共有されている。プライバシーとデータセキュリティの問題は常に懸念されてきた。プライバシーとデータ・セキュリティが効果的に保証されない場合、ユーザーはスマート・ホームに不安を抱くようになり、その結果、スマート・ホームの発展に影響を及ぼす可能性がある。

04

14. スマートホーム企業が注目する4つのトレンド

01 IoTクラウドプラットフォームが競争上の優先課題に

スマートホームとIoTクラウドプラットフォーム企業の産業チェーンの拡大に伴い、業界は徐々に単一製品の競争からプラットフォームとエコシステムの競争へと発展し、ユーザーを中心とした総合的なコネクティビティを実現する流れに向かっており、IoTクラウドプラットフォームの優位性と運用が競争の焦点となるだろう。

02 データの価値を効果的に活用

スマートホームデータ収集は、時間や空間などの情報を組み合わせ、時間相関の動的な映像などの三次元データを取得し、ユーザーの視点から家庭環境を柔軟に観察して家庭空間の全体像を示し、一方的な情報の判断による警告のタイミング遅れ、追跡困難、不正確な検出などの問題を改善できる。

03 製品パーソナライゼーションの推進

技術・設計革新を通じて、スマートホームは各家庭が最適なスマートライフ体験を享受できるようにしている。それにつれ、業界は人間本位、パーソナライゼーション主導の新時代に突入しつつある。モノのインターネット、人工知能、ビッグデータ分析などの技術発展は、スマートホーム製品に高い知能と柔軟性を与え続け、製品の機能範囲を拡大し、パーソナライズされたサービスを提供する能力を高めている。

04 エコ互換性へ

スマートホーム業界のエコシステム互換発展トレンドはユーザー中心であり、オープンスタンダード、クロスプラットフォーム相互接続、業界チェーン連携、クラウド側コンピューティングの融合などの方法を通じて、業界の綿密な統合と発展を共同で推進し、インテリジェントでボーダレスな万物の真のコネクティビティを実現していく。

著作権表示

本レポートは、上海嘉世营销咨询有限公司(MCR)の完全なレポートから抜粋したショート・バージョンです。
詳細な内容については、mcr@chinamcr.comまでお問い合わせください。

本レポートにおけるすべての内容（文字記事、写真、映像、イラスト、図表等の資料を含むがこれらに限定されない）は、『中華人民共和国著作権法』、『中華人民共和国著作権法実施規則』および万国著作権条約により保護されています。

本レポートの著作権は、MCRに帰属しており、転送、転載、引用が必要な場合は、出典を明記しなければならず、内容に関してはいかなる変更も行ってはなりません。

本レポートは無料であり、いかなる組織または個人も、課金を目的として営業活動に使用してはなりません。

